

序 章

和歌山県立医科大学(以下、本学)は、和歌山県における唯一の医学・医療系の大学である。本学が和歌山県の保健・医療・福祉分野を担う人材育成の中心的な役割を果たすためには、医師だけでなく、保健看護職者の専門性の強化が不可欠である。そのために、平成 20 年 4 月本学大学院に保健看護学研究科(以下、本研究科)修士課程を開設した。平成 24 年までに保健看護職者 62 名が入学し、平成 25 年 3 月までに 51 名が修了した。修了生は、本学保健看護学部の教員、本学附属病院の看護師長やスタッフ、和歌山県庁職員、近畿圏にある看護系大学の教員など、近畿圏の保健医療機関や教育機関で専門職業人として活躍している。

開設してから 5 年間、このような修了生の動向に対し、本研究科内で起こってきた問題に対しては、研究科委員会を中心としてその解決に取り組んできた。たとえば教育内容についても抜本的な改革とは言えないが、さまざまな状況の変化に対応してきた。しかし、残された課題を検討する必要がある。

そこで今回、本研究科に博士後期課程の開設を控え、本研究科修士課程の自己点検・評価を行うことで、本研究科修士課程の教育研究水準を見つめ直し、改善すべき点やその改善目標が見える形で示す取り組みを行うことにした。本研究科の自己点検・評価は、本学保健看護学部の自己点検委員会が中心に行っているために、本自己点検・評価もその委員会のメンバーが中心となって取り組み、最終的に本研究科の研究科委員会がまとめたものである。

自己点検・評価は、教育研究水準を高め、社会の期待に応えるために、教職員自らがこれまでの状況を振り返る機会でもある。本報告書が本研究科の教職員にとって、本研究科の開設時の理念や時流に沿った改革、そして今後の展望を再確認する資料となることを願っている。